

## 桜と FT と

たのしみは 朝おきいでて 昨日まで 無かりし花の 咲ける見る時

～橘曙覧「独楽吟」～

今住んでいる住宅の裏手に、杉や松に混じり三本の桜の木があります。

それまで蕾だった桜がたった一日で咲き、2・3日で満開に。そして六ヶ所特有の強い風で葉桜になり、あっという間に散ってしまいました。蕾～葉桜まで二週間ばかり、ちょっと寂しい気はしますが、花の潔（いさぎよ）さも感じました。

明日ありと 思う心の仇桜（あだざくら） 夜半（よわ）に嵐の 吹かぬものかは

～親鸞聖人～

浄土真宗の開祖、親鸞聖人は若干9歳で得度（とくど：正式なお坊さんになること）しました。得度を頼まれた寺が、夜遅いから延期しようと「時間も遅いし明日にしてはどうか」という言葉をかけた際に詠んだのが上記の歌です。「桜は明日見ればいいという心が仇になって、桜を見ることができないことがある。夜中に嵐が吹かないとどうして言えますか？」

「明日でいい」という思いから、その機会を逃してしまうということはよくあります。先延ばしをすることで、想いの強さは薄れていきます。また必ず明日があると思っても、何が起こるかわからない世の中ではどうなるかわかりません。

「今、このときを大切に」時を越えて親鸞聖人のメッセージは、現代の私たちにも響くものがあるように思います。

今年度から週末にフィードバックタイム（以下FT）という時間を設けることになりました。「授業で分からなかったこと。様々な悩みごとをそのままにしておかない！」「分からなかったことや困っていることを休み（土・日）に持ち込まない（解決のめどをつける）」を合言葉に始めた取り組みです。

4月21日（木）に1回目のFTがあり、生徒たちが先生を選び、先生の居る場所に自分で移動し、自分から分からない事や悩み事を相談しました。FTはまだスタートしたばかりで、手探り状態ではありますが、子ども達の悩み事が少しでも和らいだり、分かる喜びを見つけるきっかけになればと願っています。

藤川俊彦（令和4年4月28日更新）